

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
呉市立白岳小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	3	3	4	3	3	3	19	3	22

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5, 6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	3	3	9	
理科	6	3	3	9	

授業時数 計 18 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	3	1	2.6	2.6	

授業時数 計 2.6 (b)

授業時数 合計 20.6 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	専科	A	A	推進	A	専科	専科	A	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	専科	B	B	推進	B	専科	専科	C	B	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	C	専科	C	C	推進	B	専科	専科	C	B	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: D)	D	専科	D	D	推進	専科	専科	専科	D	D	D	D	D
5年 2組 (担任: E)	E	専科	E	E	推進	J	専科	専科	E	E	E	E	E
5年 3組 (担任: F)	F	専科	F	F	推進	F	専科	専科	F	F	F	F	F

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2	5	2.6	1.7	1.7	3	1	1	2	1
3年 1組 (担任: G)	G	専科	G	G	G	J	G	G	G	G	G	G
3年 2組 (担任: H)	H	H	H	H	H	H	専科	H	H	H	H	H
3年 3組 (担任: I)	I	専科	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
3年 4組 (担任: J)	J	J	J	J	推進	J	専科	H	J	J	J	J

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	26	A				0	22	22
6-2	26	B	6-3	外国語	2	3.4	19.4	22.8
			6-3	音楽	1.4			
6-3	26	C	6-2	体育	2.6	2.6	18.6	21.2
5-1	31	D				0	20.5	20.5
5-2	31	E				0	20.5	20.5
5-3	32	F				0	21.9	21.9

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上, ②多面的な児童理解, ③小・中学校の円滑な接続, ④教師の負担軽減, ⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	教材生物, 植物の飼育・栽培及び授業前の予備実験等が充実した。また, 5, 6年生の学習内容の系統的な指導が充実した。
②	基礎的な学習内容の理解度の向上と, 実験・観察・話し合い等の活動を通して主体的な学習姿勢を育成。
③	小学校の学習内容に加えて, 発展的な内容に触れることで学習の連続性を意識した指導を行った。
④	教材の選定や器具の管理を一括することで各学年の担任の業務量を削減できた。
⑤	学習内容に関連する時事的な話題や発展的な内容の教室掲示。

〈成果〉	
①	具体物を通しての学習機会が増え, 実感を持った児童の生活に結び付いた指導を継続して展開できた。
②	実物重視の目に見える具体的な学習を可能な限り取り入れたことで生活経験の乏しい児童に於いて理解度の向上が見られ, 主体的に学習に取り組む姿勢の育成につながった。
③	発展的な内容に触れることで学習内容への関心及び理解度が向上した。(学習内容の理解度に対する肯定的自己評価 93.7%)
④	効率よく教材準備を行うことで, 各学級担任の業務量削減ができた。
⑤	時事的な話題や学習内容の発展的な資料等の教室掲示によって, 理科の学習に対する関心が高まった。



〈課題〉	
①	教材生物, 栽培植物の生育不良により適切な時期での実物を提示しての指導が困難であったため代替教材を用いたが, 一部不十分な点もあった。
②	日常の生活経験が乏しい児童には, 学習内容を実生活と関連付けて理解できるようにすることが困難であった。
③	小学校段階での学習意欲, 学ぶ姿勢をどのように継続させていくか。
④	学級間格差への教材や指導法等での対応
⑤	各担任が理科の授業から遠ざかり, スキルアップが難しくなる。

〈対策〉	
①	代替教材を使い, 教科書で取り扱っている教材と同等の観察実験を行った。また, 栽培法を工夫し, 研究する必要がある。
②	指導の過程で基本的な事柄についても一つ一つを押さえて, 日常生活と関連付けて指導した。
③	小学校段階で習得すべき知識・学び方の定着, さらに説明する力, 文章力の向上を図り, 関連する発展的な内容も取り入れながら小中の学習が連続するようにしていく。
④	各担任との連携・情報共有を綿密にし, 児童実態を捉えて継続的に指導に生かしていった。
⑤	教材の準備, 予備実験等, 理科を担当しない各担任が可能な範囲で立ち会う。

